

2022年度 講義要綱

科目	コミュニケーション I	必修 2単位 講義	講師	東郷 結香、佐藤 博美、笠原 麻衣子
授業概要	クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)			
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようになる。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・絵本を活用した表現活動について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術①」井上まどか)			
到達目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身に付けることができる。			
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 グループコミュニケーション(1) 3 学校生活とクラス活動(入学から卒業まで) 4 就職とコミュニケーション(1) 5 グループコミュニケーション(2) 6 産学連携 7 自己分析(1) 8 自己分析(2) 9 グループコミュニケーション(3) 10 グループコミュニケーション(4) 11 グループコミュニケーション(5) 12 産学連携 13 14 グループコミュニケーション(7) 15 振り返り・夏季休暇・後期の学校生活に向けて 16 17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子 18 コミュニケーションプログラム(1)鑑水 19 グループコミュニケーション(1) 20 就職とコミュニケーション(1) 21 産学連携 22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:井上まどか 23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と会おう③」担当:武田優 24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅江 25 就職とコミュニケーション(2) 26 コミュニケーションプログラム(2)鑑水 27 産学連携 28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 29 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美 30 振り返り・進級に向けて			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
成績評価の方法と基準	出席状況(30%) 授業態度(30%) 提出物(20%) 発表(20%)			
担当教員の専門分野等	笠原麻衣子・佐藤博美・東郷結香:実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○鈴木八重子:講座責任者 ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○飯田有美:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動にお			

2022年度 講義要綱

科 目	体育講義	必修 1単位 講義	講 師	真砂 雄一
授業概要	<p>健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレス解消やストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動、栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。</p> <p>また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身につけておくことが必要になる。スポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的</p>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル(生活様式)を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。 ・誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。 ・授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・スポーツについての基礎知識を説明できる。 ・からだの発達と加齢のプロセスを理解している。 			
授業方法	<p>授業は、オンラインで行う講義・演習と対面での講義・演習・実技のブレンディンク・スタイルで行う。</p> <p>授業で学んだ知識を日常生活に取り入れ、自身の健康について考える機会としてもらいたい。</p> <p>なお、対面授業時には、実際に子ども達の運動遊びを体験してもらう回があるが、その際は動きやすい服装で参加すること。</p> <p>※運動遊びをする回については、事前に予告をする</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、スポーツについて考える 2 幼児期に必要な運動とは(実技含む) 3 年齢別に応じた運動指導 4 遊具と安全管理(オンライン) 5 色々な環境下での運動(オンライン) 6 産学連携 7 子どもの体力と運動 8 幼児体育(実技含む) 9 体育におけるレクリエーション的要素 10 運動神経とは 11 肥満・骨・加齢と運動(オンライン) 12 産学連携 13 運動時の怪我と応急処置 14 トレーニング 15 運動と健康 まとめ 			
必須テキスト	特になし(授業中に配布、オンライン上に資料を掲示)			
参考文献	授業内で適宜紹介する			
成績評価の方法と基準	<p>授業に対する関心・意欲・態度(40%)＋提出物(30%)＋試験(30%)＝合計(100%)</p> <p>※各回が関連しあっているため、欠席しないよう取り組んでほしい。</p>			
担当教員の専門分野等	<p>「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野：幼児体育、身体表現、レクリエーション</p>			

2022年度 講義要綱

科目	日本語	必修 1単位 講義	講師	遠藤 真司
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育士として必要な基礎的な言語能力の向上を目指す。教育実習や実際に保育士になった時の対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。			
授業目標	「話すこと」自分の考えや思いを適切に表現する。 「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 「書くこと」自分の一番伝えたいことを的確に表現する。 「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。			
到達目標	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現をする。 話し手や書き手の一番言いたいことを正しく理解し、自分の考えを明確にする。			
授業方法	4つの言語能力についての講義を行い、それに基づいたテーマを設定し、受講者同士の対話活動を通して自分の考えを深める。授業についての振り返りを行い、成果と課題を言語化することにより自分の言語能力の資質能力の向上に生かす。			
授業計画	1 「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の4つの言語能力について基礎的な知識を理解する。自己紹介などを通してこれらが日常生活の中で生かされていることに気づく。全15回の授業の見通しを持つ。 2 音声言語の「話すこと・聞くこと」の特徴を知り、声量、明瞭性、顔の向き、表情、話の中心、要点、聞き手の反応などの大切さを、具体的な場面の演習を通して学ぶ。 3 保育士として、子どものことをよく観察して、それを保護者に適切に話すことの大事さを、具体的な場面の演習を通して学ぶ。 4 文章で表す「書くこと」の特徴を知り、自分の考えを相手に適切に表現するための技術を学び、具体的なテーマのもとでレポートを書く。 5 保育士を目指す者として実習日誌の書き方や、保護者への連絡帳の書き方の大事なことを知り、具体的なテーマのもとで実習日誌や連絡帳を書き、適切な書き方を学ぶ。 6 前もって考えておいた課題を産学連携の場で学ぶ。 7 「読むこと」の意味を知り、具体的な読み物資料をもとに、文章にはさまざまな種類があり、それぞれ読み方が異なることを学ぶ。 8 文章を読む時の音読の仕方を、さまざまな観点から学び、それを実際の絵本の読み聞かせに生かす。 9 絵本の読み聞かせの意義、特徴を知り、実際に受講者同士で読み聞かせを行い、この活動から子どもの育てたい資質について考える。 10 さまざまな絵本の叙述の特徴、その世界を知り、実際に受講者同士で読み聞かせを行い、この活動から子どもの育成について学ぶ。 11 紙芝居の意義について知り、その指導技術を学び、実際の受講者同士で読み聞かせを行い、この活動から子どもの育成について考える。 12 前もって考えておいた課題を産学連携の場で学ぶ。 13 子どもたちが親しむ昔話などを題材にして、書き手の一番言いたいこととは何かを考えることの大切さを学び、言葉の面白さを学ぶ。 14 子どもたちが親しむ童話から、文章を読みながら矛盾などを感じ取り、叙述の仕方によって相手に与える印象が違ってくることを知り、言葉の面白さを学ぶ。 15 日本語の特色を改めて考え、全15回の授業を振り返って、学んだことをレポートに書き表す。			
必須テキスト	特になし			
参考文献	各自、自分の好きな絵本を持ってくる。(その時期については教師が指示する)			
成績評価の方法と基準	出席(40%)、授業中の態度(30%)、課題提出と内容(30%)を基本に授業中全体から総合的に評価する。			
担当教員の専門分野等	国語教育を専門分野として大学、大学院で講義を行っている。また主に小学校の教員を対象に国語教育の講演会講師を務めている。小学校国語教科書編集委員、特定非営利活動法人日本語検定委員会委員。国語教育の書籍執筆多数。小学校教員、大学院生、大学生らを対象とした「絵本の読み聞かせ」の指導会を主宰。			

2022年度 講義要綱

科目	保育原理	必修 2単位 講義	講師	星野 優芽
授業概要	「保育とは何か」ということについて考えていきます。自分の考えを持って、保育は誰のためにあり、何のためにあるのか、自分はどんな保育者になりたいか、を考え続けるための授業です。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育は誰のためにあるのか、何のためにあるのかを説明できるようになる 2. 保育における「乳児保育の3つの視点」「5領域」「10の姿」を理解する 3. 保育における「子ども理解」を知る 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 この授業の内容や方法について説明します。その上で、時間が余ったら、みなさんが「保育」についてどんなイメージを持っているのか、教えていただきたいと思います。 2 学校教育と保育の違いはどこにあるのでしょうか？それについて考えた上で、保育の理念や概念、子どもの最善の利益を学びます。 3 保育は保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育などがあります。それぞれの施設について知り、また保育の社会的意義についても考えてみましょう。 4 養護と教育の一体性、環境を通して行なう保育、生きる力の基礎を育むということについて学びます。養護とは何か、教育とは何か、考えてみましょう。 5 保育は子どもの育ちを支える営みです。そうした育ちを支えるためには、目の前の子どもたちが「どんな経験をするのが望ましいのか」を考え、また「どんなことが育っているか」と捉えることが大切です。そのための視点として 6 保育の現場で、保育とはどんな営みなのか、観察してみましょう。 7 「乳児保育の3つの視点」や「5領域」は、その子どもの発達によって、ねらいや内容が異なります。子どもの発達と合わせて、それぞれの視点について考えてみましょう。 8 「5領域」と実際の子どもの姿を重ねてみながら、どんなことが育っているのか、考えてみましょう。 9 保育は、「教育課程」や「全体的な計画」と言われる大きな長期的な計画から、「期案」「月案」「週案」「日案」「部分案」というような短期的な計画があります。これらは、それまでの保育施設における子どもの姿をもとに枠組みが作 10 実際の保育所の月案や、幼稚園の週案を見て、保育者がどんなふうに行っているのか、どんなことに配慮しているのか、考えてみましょう。 11 保育所や幼稚園、こども園を卒園した子どもたちは、小学校へ就学します。小学校での生活や学びは、当然それまでの乳幼児期からの生活や育ちと連続しています。そうした保幼小の連続性を考えるために、「幼児期の終わ 12 前期2回目の産学連携になります。保育の場面にかかわりながら、実際に子どもの姿やそこに関わる保育者の姿、自分の関わり方について、エピソードを書いてみましょう。 13 まず「子ども理解」とは何か。「子どもを理解する」と一言で言っても、それはどんな視点からの理解なのでしょう 14 子どもの「気持ちが動く」瞬間を見つけ、その場に立ち会うと保育者も「たのしい」「うれしい」「おもしろい」と心が動きます。そしてそれを記録に残すことが必要なのですが、その際には、「個人」の視点と「集団」の視点から、子どもたち 15 ・乳児保育における3つの視点と5領域の書き取り <p>・保育とは何か(誰のため/何のためにあるのか)(自由記述)</p>			
必須テキスト	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考文献	授業中に随時紹介します。			
成績評価の方法と基準	欠出席 …30% (6回分の欠席でE判定:再履修) リアクションペーパー …35% テスト …35%			
担当教員の専門分野等	保育者の専門性、実践知、0歳児保育について特に関心があります。 保育者は保育中何を考えているのか、何を見ているのか、あるいは、何について把握しておかなければならないのか、何を意識しておかなければならないのか、それが保育の実践における専門性であると考えています。			

2022年度 講義要綱

科目	保育原理	必修 2単位 講義	講師	小澤 由理
授業概要	<p>保育者として基礎的な保育の事項を学ぶことを目標に、保育の歴史・思想を通じて保育の目的や意義を理解するとともに、保育に関する法や制度、保育の内容と方法、そして今日的求められる保育者の在り方について理解する。保育の内容と方法については、保育所保育指針を基礎としながら、幼児の発達の特徴を学ぶとともに、具体的な保育指導計画をもとに保育記録を作成することで、保育者に求められる考え方や態度について理解する。</p>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。 			
到達目標	<p>保育の歴史、思想および実践的な原理を理解し、保育職の意義を理解し、倫理観を高める。保育の内容構成や基本方針を理解し、現代における保育の在り方と、保育現場に求められている内容について理解する。</p>			
授業方法	<p>パワーポイントを使ったスライドを活用した講義を中心に、プリント・資料を配布する。またグループフォームを活用した課題の提出を求める。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン:保育原理とは 2 保育の思想と歴史 3 現代日本の保育政策と保育制度 4 子育て支援と保護者への対応 5 子どもの発達と保育:乳児保育 6 産学連携 7 子どもの発達と保育:幼児保育 8 子どもの発達と保育:遊びと発達 9 保育と環境構成 10 保育の指導計画と保育の記録 11 保育における省察とエピソード記録 12 産学連携 13 ドキュメンテーションの作成 14 保育の評価と改善:ドキュメンテーションの発表 15 講義のまとめ・定期試験 			
必須テキスト	<p>授業時にプリントを配布する。</p>			
参考文献	<p>『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示 内閣府・文部)</p>			
成績評価の方法と基準	<p>授業への意欲的、積極的な取り組みを期待し、評価する。出席(30%)+課題(ドキュメンテーション)の提出(40%)+試験(20%)</p>			
担当教員の専門分野等	<p>西洋・日本の女性教育史の研究。保育実習指導に関する研究。</p>			

2022年度 講義要綱

科 目	教育原理	必修 2単位 講義	講 師	末岡 尚文
授業概要	人間が社会で生きていくために必要となる能力や資質を発達させる「教育」という営みについて、歴史や思想、制度、社会との関わりなどに焦点を当てながら幅広く学び、受講者各々が自分なりの「教育」観を構築することを目指します。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な知識を身に着け、自己の(被)「教育」経験を相対化する。 2. 自らの目指す「教育」像やその課題、可能性について、理論や実践に基づいて、他者にわかりやすく説明できる。 			
授業方法	講義形式での授業を基本としつつ、適宜視聴覚教材を用います。リアクションペーパーへの記述や、グループワーク等を通じた参加者同士の意見の交換を重視します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 2 教育の基礎 (1):「子ども」とは誰か? 3 教育の基礎 (2):なぜ学校で「学ぶ」のか 「発達」とは? 4 教育の基礎 (3):なぜ学校で「学ぶ」のか 「遊び」と「学び」 5 教育の基礎 (4):学校を支える制度と組織 6 産学連携(授業なし・課題有り) 7 教育の歴史と思想(1):近代学校の成立と展開 8 教育の歴史と思想(2):戦後日本における子どもと学校・社会 9 教育の歴史と思想(3):「分ける」教育と「共に学ぶ」教育 10 教育の歴史と思想(4):学校における「学力」と「評価」 11 教育の現代的課題(1):学校と「いじめ」「不登校」 12 産学連携(授業なし・課題有り) 13 教育の現代的課題(2):市民としての子どもと教育 14 教育の現代的課題(3):ICTと教育 15 授業のまとめ:「教育」とは何か? 			
必須テキスト				
参考文献	授業内で適宜紹介します。			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み (30%) + ワークシート・リアクションペーパー (70%) = 合計 (100%)			
担当教員の専門分野等	戦後日本教育史。特に「障害児の普通学校就学運動」における子どもの当事者性についての研究を行っています。			

2022年度 講義要綱

科 目	教育原理	必修 2単位 講義	講 師	柏木 睦月
授業概要	「教育とはなにか」という問いをめぐる様々な知識を学びます。また、現代的な教育課題についても学びを深めていきます。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基礎的な事柄について理解し、自分自身の教育観について考えを深めることができる。 ・授業の中で考えたことについて自分の言葉で表現することができる。 			
授業方法	基礎的な事柄については講義形式で授業を行います。適宜視聴覚教材を用いることもあります。また、グループワークやディスカッションも行う予定です。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN:「教育」とは何だろう? 2 「子ども」「家族」とは何か 3 子どもの教育を支える制度などにはどのようなものがあるか 4 海外での教育制度にはどのようなものがあるか 5 子どもの「遊び」や「学び」とは何を意味するのか 6 産学連携 7 近代ヨーロッパの教育思想 8 近代学校の成立/日本における学校の展開 9 戦後の日本における学校と地域社会 10 教師の仕事とその役割とは何か 11 「インクルーシブ」とは何か、インクルーシブな学校とはどのような空間か 12 産学連携 13 子どもの学びはどう「評価」すればいいのか 14 子どもを取り巻く「教育の現代的課題」 15 まとめ:あらためて「教育」とは何か 			
必須テキスト	特に指定しません。			
参考文献	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み・出席状況(30%) + 各回のワークシート・リアクシヨNペーパー(70%) = 合計(100%)。授業やグループワーク、ディスカッションへの積極的・意欲的な取り組みを期待しています。			
担当教員の専門分野等	専門分野: 日本教育史、養護教諭史。東京大学大学院教育学研究科博士課程、修士(教育学)。「実務経験のある教員による授業」に該当。中高で養護教諭としての勤務経験あり。			

2022年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉	必修 2単位 講義	講 師	荒田 直輝
授業概要	本授業では、①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深め、子育て支援のあり方について幅広い視点を身につけること、②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと、③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや家庭、家族についての幅広い視点を身につける。 ・「子どもの最善の利益」「ウェルビーイング」について理解を深める。 			
到達目標	子ども家庭福祉における基礎的な知識を身につけること及び興味・関心を持つことを目標とする。			
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 「子どもの権利」とは 3 子ども家庭福祉の歴史的展開 4 現代社会における「子どもと生活」 5 子育てをめぐる問題 6 産学連携 7 子ども家庭福祉と保育サービス 8 児童虐待とは 9 地域における子ども・子育て支援 10 子どもの遊びと福祉①(児童館とは) 11 子どもの遊びと福祉②(学童保育とは) 12 産学連携 13 子どもの「居場所」と「福祉」 14 子どもの権利と社会参加・参画の支援 15 まとめ 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	出席・授業へ取り組む姿勢・小レポートなどによる総合評価			
担当教員の専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。			

2022年度 講義要綱

科目	子ども家庭福祉	必修 2単位 講義	講師	日高 洋子
授業概要	子どもと、子どもを保護する家族という環境について、現状と課題を考察する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭(家族)福祉の歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭(家族)福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭(家族)福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭(家族)福祉の福祉の展望について理解する。 			
到達目標	<p>保育者として、子どもを保護しつつ子どもの権利を実現するために、子どもと家族を、どのように支え合うか、学生一人ひとりが考えてみる。</p> <p>そのために、子どもと家族の現状と支援制度を理解する。</p>			
授業方法	<p>学生参加型の授業を行う。一人ひとりがそれぞれの持つ意見を提示し、他の受講生は、それを聴き取りながら、みなで、さらに新たな展開を可能にしていくような授業方法を展開したい。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉法の冒頭に掲げられている「子どもの権利」について、子どもの権利条約を中心に学ぶ。 2 「家族」と呼ばれる集団の特徴について、学ぶ。家族の多様性についても理解を深める。 3 貧困とは、貧困格差は子どもや大人にどのような影響を及ぼすのか考える。その上で、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」の実現のために定められた生活保護制度 4 生活保護制度を活用するためのルール(4原則)について、学ぶ。 5 社会手当(児童手当や児童扶養手当など)の目的・対象・内容について学ぶ。 6 内容は現場のプロの講義。 7 児童福祉行政の第一線機関と呼ばれる児童相談所(児相)の目的・内容について、理解を深める。 8 保育所・児童館・児童養護施設などの、おもな児童福祉施設の目的・対象・内容について理解を深める。 9 児童虐待(家族内)の生じる背景について考える。 同時に、子どもやその家族に対して、保育者が上記に掲載した社会資源と連携しながら支援していくプロセスを、学 10 児童虐待の際、子どもと家族それぞれを支える児童相談所・児童養護施設・里親についても学ぶ。 11 「しょうがい」とは、「障害者の権利条約」をもとに考える。その上で、しょうがい児(当事者自身)と家族に対する「支援とはどうあるべきなのか。権利条約に盛り込まれた「合理的配慮」の意味も同時に学ぶ。 12 内容は、現場のプロの講義。 13 「認知症」について理解を深める。その上で、ケアに困難を感じている家族や、その影響を受けて不安定になっている子どもへの対応を考える。 14 「性的少数者」とは？ そう呼ばれる人々は精神的異常なのか？ これらの疑問について、深く考えてみる。その上で保育者は、性的少数者として苦しんでいる子どもを、いち早く見出し対応するには、どのような心構えが必要な 15 全15回の講義の内容について、自己の理解度を確認する作業(テスト)を行う。 理解度確認作業は45分間程度。正解・質疑応答は45分間程度。 			
必須テキスト	<p>使用しない。</p> <p>講義ごとに、資料を掲載する。</p>			
参考文献	講義時に紹介する。			
成績評価の方法と基準	理解度の確認(テスト)50%+授業への参加度50%(意見や質問、Teams掲載資料の閲覧など)の総合評価。			
担当教員の専門分野等	<p>ファミリー・ソーシャルワーク専攻。社会福祉士。</p> <p>神奈川県大和市「女性の総合相談」を担当。</p> <p>現在は、小平市・国民健康保険運営協議会委員として、子どもの医療保障問題に取り組んでいる。</p>			

2022年度 講義要綱

科 目	社会福祉	必修 2単位 講義	講 師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新の動向を押さえながら、現場の実践に関連づけて学習する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。 2. 相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。 			
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する統計資料やプリント、映像教材なども活用していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史の変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉の実施機関 6 産学連携 7 社会福祉の専門職 8 相談保障及び関連制度の概要 9 相談援助の理論 10 相談援助の意義と機能 11 相談援助の対象と過程 12 産学連携 13 相談援助の方法と技術 14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 15 試験 			
必須テキスト	『九訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい			
参考文献	『社会福祉小六法2022』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(30%) + 提出課題(20%) + 定期試験(50%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅支援の現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。			

2022年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I	必修 2単位 講義	講 師	北川 裕子
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。 子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 			
到達目標	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 保育士として必要な人権意識がもつことができる。			
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護とは？(理念と概念) 2 社会的養護の歴史 3 子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割 4 児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護 5 施設内虐待の防止 6 産学連携 7 児童虐待 8 社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職 9 養護の基本原則 10 家庭養護 11 施設養護の実際(支援内容) 12 産学連携 13 施設養護とソーシャルワーク 14 運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など) 15 社会的養護と地域福祉、今後の展望 			
必須テキスト	図解で学ぶ保育 「社会的養護 I」 原田旬哉他編著 萌文書林 「ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック」 中央法規			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(15%)+提出物(75%)=合計100% 積極的な取り組みに期待します。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			

2022年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I	必修 2単位 講義	講 師	鴫田 陽介
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学ぶ。 児童虐待についての基本的な考え方や現状などを学ぶ。 要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について学ぶ。 子どもの権利擁護の歴史の変遷や現在の内容について学ぶ。			
授業目標	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。			
到達目標				
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護を学ぶ意味と必要性 2 社会的養護の基本的な考え方と歴史 3 社会的養護に関わる法制度とその歴史 4 社会的養護の様々な形態 5 児童虐待の種類と現状 6 産学連携 7 家庭的養護ー里親とはなにか?ー 8 社会的養護施設の現状①ー子どもたちの生活の姿ー 9 社会的養護施設の現状②ー支援の原理原則ー 10 社会的養護施設の現状③ー愛着障害と発達障害の理解ー 11 社会的養護施設の現状④ー地域連携ー 12 産学連携 13 社会的養護施設の現状⑤ー関係機関との連携ー 14 テスト・振り返り 15 社会的養護施設の今後の展望			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内で紹介します。			
成績評価の方法と基準	出欠席(30%)＋授業内レポート(30%)＋定期試験(50%)＝合計(100%) 初回授業時に説明します。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。			

2022年度 講義要綱

科目	保育の心理学	必修 2単位 講義	講師	小沢 恵美子
授業概要	保育所にいる乳幼児期を中心に、子どもの発達について学習する。 今までの自分の経験と授業内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践に関する発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的 関わりや体験 環境の意義を理解する。 			
到達目標	<p>子どもの発達に関する心理学の基本的知識を学び、子どもの発達について説明できる。</p> <p>自分が保育者になった時のことを考えながら、授業内容を理解する。</p> <p>理解した内容や自分の考えを、他者が理解できるようにわかりやすく伝える。</p>			
授業方法	<p>テキストを使いながら、授業内容をプリントにまとめていく。</p> <p>可能であれば各自の考えを発表したり、グループワークを取り入れる。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、子どもの発達と環境 2 情緒の発達 3 自我の発達 4 愛着の形成 5 愛着行動と愛着の発達 6 産学連携 7 社会的相互作用 8 認知の発達(1) 9 認知の発達(2) 10 コミュニケーションの発達 11 乳幼児期の学びに関わる理論 12 産学連携 13 動機づけ 14 発達障がいについて 15 全体のまとめ 			
必須テキスト	『保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解』井戸ゆかり編著(2019年)、萌文書林			
参考文献	授業中に適宜紹介します。			
成績評価の方法と基準	<p>授業への取り組みやリアクションペーパー(15%)+レポート(30%)+定期試験(55%)=合計(100%)</p> <p>授業の進捗によって各割合は若干変わる可能性があります。</p>			
担当教員の専門分野等	発達心理学や教育心理学の授業を担当してきました。発達心理学の「子ども(幼児期)」の分野に興味があります。			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助	必修 1単位 講義	講 師	東郷 結香、石崎 隆嗣
授業概要	本科目では、子どもの内面を理解するために大事にしたいポイントや考え方を学習する。社会的養護や障害児者支援の現場等を例に、子どもの健やかな成長のために具体的にどのような支援が存在するか理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護が必要な子ども、障害のある子どもをとりまく社会情勢や課題を説明できる。 ・子どもの視点から子どもが見ている世界を想像し、関わり方を考察できる。 			
授業方法	講義と並行して、事例検討、グループワーク、視覚教材の視聴など、演習的学習を通して、保育者として子どもの状態や気持ちを想像しながら関わる力を養う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション「子ども理解」とは何かを知る 2 子どもと関わる保育士の心構え 3 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども1) 4 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども2) 5 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども3) 6 産学連携 7 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども4) 8 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども5) 9 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども6) 10 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども1) 11 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども2) 12 産学連携 13 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども3) 14 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども4) 15 試験 			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2021』全国保育士養成協議会(監修)、西郷泰之・宮島清(編著)、中央法規			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
成績評価の方法と基準	出席状況(25%) + 提出物・授業態度(25%) + 試験(50%) = 合計(100%) 授業に出席し、授業中に伝える大事なポイントを記録し、提出物の期限を守りましょう。			
担当教員の専門分野等	(東郷)心理学が専門。児童養護施設や発達障害児支援、心理臨床の現場を経験。 (石崎)教育学が専門。児童発達支援および放課後等デイサービスの現場を経験。			

2022年度 講義要綱

科目	子どもの保健	必修 2単位 講義	講師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理的解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標	1. 子どもの解剖および生理的機能、心身の発達について理解する。 2. 社会環境や制度、保護者との係りなどを通して、子どもの健康の維持、増進についての理解を深める。			
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生が考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 興味を持つように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。			
授業計画	1 心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 2 母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。 胎児期～出生時の障害児を学ぶ。 3 身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。 4 子どもの病気の特徴を学び、理解する。 子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。 5 子どもの循環器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 心臓、血管、血液、脈拍、血圧など。 6 産学連携 7 呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。 8 消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 胃、腸、胃腸炎、下痢など。 9 泌尿器系、内分泌、生殖系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 腎臓、ホルモン、生殖器、排泄(排尿、排便)など。 10 感覚系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 目、鼻、口、耳、触覚、五感覚器など。 11 脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 脳、神経、原始反射など。 12 産学連携 13 その他の疾患について学ぶ。 悪性腫瘍、障害など 14 各感染症の感染経路と予防接種について学び、理解する。 15 総まとめとして定期試験を行う。			
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布します。			
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布します。			
成績評価の方法と基準	定期試験(80%) +リアクションペーパー・小テスト(15%) +提出物(5%) = 合計(100%)を総合して評価します。			
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、クーマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。 テキスト『子どもの保健と安全』第5章執筆			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもの保健	必修 2単位 講義	講 師	尾近 千鶴
授業概要	1. 子どもの発達・成長の特性と、心と身体の健康を維持し、増進する働きかけについて学ぶ。 2. 先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに健やかに育ち、自立した生活が送れるように、周囲の大人や社会の適切な対応について理解を深める。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標	1. 総合的に保育することを理解し、子どもの発達を踏まえた乳幼児の保健の内容について、具体的に説明できる。 2. 具体的な保育における保健場面を想定し、環境の構成、保育士の配慮事項を含む、保健的な対応を組み立てることができる。			
授業方法	対面授業と遠隔授業。Teamsの機能を活かした資料の配布と課題提出の推進を図る。自分の考えを発表する機会を設定する。様々な形式で演習問題に取り組み、知識の定着と臨床で活かせる知恵を身につける。			
授業計画	1 ガイダンス 授業の進め方 子どもの保健とは 2 健康の概念とは 健康指標とは 3 現代社会における子供の健康に関する課題 出生・死亡 4 子どもの疾病の予防と適切な対応 免疫機能 5 子どもの疾病の予防と適切な対応 感染症 6 産学連携 7 子どもの身体発育と運動機能の発達 標準と評価の仕方 8 子どもの生理機能の発達 9 子どもの心身の健康状態とその把握 体調不良時の対応 10 アレルギー疾患の特徴と適切な対応 11 新生児の病気、先天性疾患の特徴と対応 12 産学連携 13 慢性疾患の特徴と適切な対応 14 地域における保健活動 15 子どもの健康診断 保護者・関連機関との連携※内容、回は授業の進行等により変更することがあります。			
必須テキスト	「授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健 テキスト」 小林美由紀編著 診断と治療社			
参考文献	授業中に紹介します。			
成績評価の方法と基準	小テスト2回(40%)＋課題レポート2回(40%)＋日常点・授業への取り組み(20%) ＝合計(100%) 意欲的、積極的な取り組みを評価します。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。国内外での教育機関などでの勤務。 子ども学分野を研究。文学博士。			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養	必修 2単位 講義	講 師	高尾 優
授業概要	<p>栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。</p> <p>また、保育の現場で重要な食育について学ぶ。児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。</p>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 			
到達目標	<p>子どもたちをとりまく環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。</p> <p>栄養の基礎的な知識を身につけ、保育所における食育に関する指針を理解し、食育を実践できる。</p>			
授業方法	<p>講義および演習を行う。授業内容の復習のための小テストを実施する。Zoom授業ではグループディスカッションを実施する。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康と食生活の意義(子どもを取り巻く環境、子どもの食生活の現状と課題) 2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝 4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本 5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養 6 産学連携 7 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養) 8 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活、生涯発達と食生活 9 食育の基本 10 児童福祉施設や家庭における食事と栄養 11 食の安全(食中毒) 12 産学連携 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良および疾病の子どもへの対応 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応 15 定期試験 			
必須テキスト	<p>今津屋直子・久藤麻子編著 新・子どもの食と栄養 教育情報出版 2022</p>			
参考文献				
成績評価の方法と基準	<p>出席および授業の取り組み・課題(20%)出席状況だけでなく受講態度、課題の提出状況なども評価します。</p> <p>小テスト(30%):対面授業では小テストを行います。</p> <p>定期テスト(50%)</p>			
担当教員の専門分野等	<p>小児栄養学(食育、食物アレルギー)</p>			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養	必修 2単位 講義	講 師	島村 憲子
授業概要	健康な生活の基本として食生活の意義・栄養について学ぶ。 発育期の子どもに対する栄養の知識を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 			
到達目標	食べることは体への栄養と心への栄養となることを理解し、子どもが安心していられる場をつくることの必要を理解する。			
授業方法	教科書や参考文献のプリントでの講義。 課題に対してのグループ討議をする。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの心身の健康と食生活について 2 子どもの食生活の現状と課題 3 栄養素の基礎知識 糖質の代謝と栄養学的意義 4 たんぱく質の代謝と栄養学的意義 5 脂質の代謝と栄養学的意義 6 産学連携 7 ビタミン、ミネラルの代謝と栄養学的意義 日本人の食事摂取基準、食品群について 8 子どもの発育、発達と栄養について 乳汁期の栄養と食生活 9 離乳期の栄養と食生活 10 幼児期の栄養と食生活 11 幼児期の食生活上の問題 12 産学連携 13 施設における食生活、特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活 14 食育の基本と内容 保育所における食育推進の計画、実施、評価 15 まとめ 試験 			
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院			
参考文献	その時々参考になるものを紹介			
成績評価の方法と基準	出席、レポート、試験による総合評価			
担当教員の専門分野等	10年間、大学の小児科医のもとで乳幼児栄養に関する研究。 その後、乳幼児・学童・成人・老人を対象にした栄養相談。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育の計画と評価	必修 2単位 講義	講 師	村山 久美
授業概要	保育における計画の意義・目的を学ぶ 子ども理解を基に保育過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)を学ぶ 指導計画を作成する			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における計画の意義を理解し、説明することができる ・子ども理解に基づく保育過程を理解し、指導計画を作成することができる 			
授業方法	講義形式、指導計画の作成・発表、グループワーク			
授業計画	1 保育の目標と計画の考え方 2 保育におけるカリキュラムとは 3 子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環 4 全体的な計画とは 5 長期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 6 産学連携 7 長期的な指導計画の作成(3歳以上児) 8 短期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 9 短期的な指導計画の作成(3歳以上児) 10 指導計画作成の留意事項① 11 指導計画作成の留意事項② 12 産学連携 13 指導計画に基づく保育の展開 14 保育の記録と省察、評価と改善 15 試験 「部分実習指導計画の作成」			
必須テキスト	『保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房			
参考文献	保育所保育指針			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(20%)＋課題(30%)＋定期試験(50%)で評価します。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、執筆。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育の計画と評価	必修 2単位 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	保育の計画と評価とはなにかを理解する。保育の計画と実践との関係を体験を通して学びを深め、知識を技能を身につける。			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。			
到達目標	保育における保育計画の意義と重要性を理解することができる。 子ども理解に基づく保育実践を体験し、子どもはあそびにより学び、成長している事を説明することができる。			
授業方法	産学連携や子どものあそびを体験する中で、保育者の意図やあそびの意味を体感し、計画と評価を体得する。			
授業計画	1 保育の計画と評価の基本 2 カリキュラムとPDCA 3 全体的な計画 4 長期的な指導計画の作成 5 短期的な指導計画 6 産学連携現場活動 7 指導計画作成上の留意点 8 指導計画に基づく保育の柔軟な展開 9 保育の記録と省察 10 保育の評価と改善 11 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録 12 産学連携現場活動 13 テスト対策 14 試験 15 まとめ			
必須テキスト	「保育の計画と評価演習ブック」ミネルヴァ書房			
参考文献	授業で紹介します			
成績評価の方法と基準	平常点(30%)+テスト(35%)+(試験35%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。幼稚園、保育所勤務経験。研究領域発達支援、グローバル保育。			

2022年度 講義要綱

科目	保育内容総論	必修 1単位 講義	講師	岸 久美子
授業概要	テキストを中心に、幼児教育における指導の方法や具体的な保育の過程について学ぶ。 また、保育現場の事例を通して、どのようにして子ども達の発達を支えているのか理解する。			
授業目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。			
到達目標	幼児の趣味や関心、発達などに応じた具体的な指導方法について理解する。 保育所保育指針等における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。			
授業方法	テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。			
授業計画	1 ガイダンス／園生活をイメージする 2 保育内容の捉え方 3 子どもの理解と評価／指導計画の作成と理解 4 幼児教育における「遊び」について 5 (オンライン)1～4回目までの振り返り及びまとめ 6 産学連携 7 養護と教育が一体的に展開する保育 8 (オンライン)子どもの主体性を尊重する保育 9 環境を通して行う保育／個と集団の育ちを支える保育 10 家庭や地域との連携をふまえた保育／小学校への接続をふまえた保育 11 (オンライン)7～10回目までの振り返り及びまとめ 12 産学連携 13 保育の多様な展開 14 保育内容の歴史の変遷と社会的背景 15 科目まとめ			
必須テキスト	新しい保育講座④ 保育内容総論(ミネルヴァ書房)			
参考文献	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(プレーベル館) その他、授業内で随時紹介する。			
成績評価の方法と基準	出席(20%)+授業態度、提出物等(30%)+学期末試験(50%)=100%			
担当教員の専門分野等	保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。現在、大学院博士後期課程において保育学を専攻。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本学校音楽教育実践学会他に所属。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容総論	必修 1単位 講義	講 師	上平 泰博
授業概要	「保育とは」何かと問いより「保育する・される」の意味を問いたい。保育内容総論を学ぶにあたって保育所保育指針にある5領域を学ぶ。保育の主体と客体とが常に入れ代わった状態に置かれる現場で、ケア対象のみに終始しない当事者意識の役割を問う。保育とは、正解を見つけたり求めたりする場ではない。自然(社会)環境を子どもの身体感覚からとらえ直す必要性に迫られている。地域や家庭が崩れていく状態は放置できない。保育(所)は成立しなくなるからだが、そもそも保育者とは誰のことだったのかも問うていきたい。			
授業目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みについて」「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。			
到達目標	1 保育内容総論という科目の全体的な枠組みと構造を把握しておくことができる 2 とりわけ5領域は明確に説明できるようにしておく 3 保育という概念を狭義にとらえないで、子どもの育ちと育てには自然観と社会観が密接につながっていることを認識する			
授業方法	保育現場の事例も取り上げながら、保育問題解決の方法をグループ対話によって進めます。授業の参加者の学びの実践力向上を構成していきます。			
授業計画	1 生命の誕生と死の起源について、宇宙の時空間とマイクロ分子生物学の視点から考える 2 きびしい自然環境下に生きた人類の子育ては分ちあう支えあう学びあうの尊厳ある関係 3 ヒトの進化(発育)で培われていった言語、絵文字、表現するの獲得過程は喜樂そのもの 4 自然と社会の関係性から編み出されていった人だけの挨拶、顔面柔和、ハグするの意味 5 保育(養育)のはじまりと保育所のはじまりは、なぜ大きな時代差となって表れたのか 6 産学連携 7 心身の健康と情緒の安定は、衣食住の中にみられる喜怒哀楽、痛苦の感性から育まれる 8 多文化共生の保育現場で生じた信頼と共感、攻撃と分断差別にも置かれるという現実 9 悩みを抱えながら日常を生きる当事者を前に保育者として今なにができるのかを考える 10 子どものもつ利己性と利他性は、バランスよく子ども期に形成されているだろうか 11 共遊共作共食といった楽しみ交流によって、心身の健康と感性を維持できるのはなぜか 12 産学連携 13 子育ての支援スキルに必要な協同性の規範、家庭と地域を重視した目標計画、記録作成 14 いつも保育内容を醸し出せるような保育士の専門性と保育という仕事の奥行きと拡がり 15 試験			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』			
成績評価の方法と基準	記述式による試験			
担当教員の専門分野等	児童館・学童保育、ファミリーサポート支援等の児童福祉、教育福祉、地域福祉、子どもの社会教育、学校外教育論、協同組合論、			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊び I	必修 1単位 講義	講 師	小倉 恵子
授業概要	いろいろな身体を動かす遊びを体験し、学ぶことで保育者として幼児期にどのような運動遊びが必要なのかを学習する。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	1. それぞれの運動遊びの特徴を理解する。 2. 運動遊びの流れ(導入、展開、留意点等)を理解する。			
授業方法	講義: 幼児期における運動遊びの特徴を理解する。 対面: 運動遊びを体験し、遊びの展開、留意点等を学習する。			
授業計画	1 アイスブレーキング、ふれあい遊び 2 鬼遊び 3 ジャンケン遊び 4 行動体力、運動スキルについて 5 運動遊びを行う上で運動面、社会面、安全面における留意点 6 産学連携 7 表現遊び 8 マット運動遊び 9 跳び箱、縄、用具等運動遊び 10 サーキット遊び 11 幼児期における経験しておきたい動き 12 産学連携 13 親子遊び 14 リズム運動 15 まとめ			
必須テキスト	特になし。			
参考文献	特になし。			
成績評価の方法と基準	出席状況、受講態度[服装、忘れ物も含む](60%) + 課題提出と評価(40%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	日本女子体育大学卒業。子ども～高齢者等幅広い層にレクリエーション指導の経験あり。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I	必修 1単位 講義	講 師	田 谷 子、鈴木 祥子、岡崎 裕希子、竹田 えり、木下 裕子、島内 亜津子、渡辺 奈子、植野 麻衣、杉橋 祥
授業概要	保育の現場において生活と遊びの中で様々な用いられる、わらべ歌、手遊び歌、リトミックソング、季節の歌や生活の歌等、知っておきたいレパートリーを多角的に演習していく。鍵盤楽器や音楽の基礎知識を学び、感じたことや考えたことを自由に表現できる力をつける。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学び、保育士に必要な読譜力やリズム感を養う ・様々な子どもの歌を演習し、自信を持って伝えたいことをしっかり表現する。 			
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。グループ分けは学生ポータルで各自で確認すること。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)に分かれて45分で入れ替わる) 2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布します) 4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法と発声法) 5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習 6 産学連携 7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 8 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)アカペラ歌唱のテクニック(ソルフェージュ) 9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リトミックを含む歌遊びの演習 11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによるアドバイス 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り 			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	随時講師が準備する。			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度(50%) + 実技試験(50%) = 合計100% 実技試験課題曲については11回目または13回目に担当講師と検討し、早めに準備する。			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	必修 1単位 講義	講 師	目黒 祥元
授業概要	造形遊びを体験しながら、基礎技能と保育における造形遊びの意味や本質について学んでゆく。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	1、造形遊びを楽しんでいた感覚を取り戻す。童心に帰る。 2、幼児造形で使用される画材を理解し、モダンテクニックなどの基礎的な技法を身につける。			
授業方法	対面、オンライン授業ともに、用意した画材と身近に見つけた材料を使って、すべて実習の授業を行う。課題は提出。			
授業計画	1 授業の進め方、課題の提出方法などについてのガイダンス。 用具、画材などについての説明と配布。 2 絵の具の基礎知識。絵の具で色を作る 3 モダンテクニック体験 *モダンテクニックとは、紙と絵の具、クレヨン、クレパスなどを使用したデカルコマニー、ドリップング、ブロウイング、 4 モダンテクニック体験 5 モダンテクニック体験 6 産学連携 7 モダンテクニック体験 8 モダンテクニック体験 9 モダンテクニック作品を壁面装飾 10 紙工作 身近な材料を使って 11 粘土で遊ぶ パルプ粘土を使用した粘土遊び 12 産学連携 13 描画における発達段階と特徴を学び、体験する。 14 カラー紙版画 版を作る 15 カラー紙版画 クレパスで刷り壁面装飾			
必須テキスト	幼児造形の基礎—乳幼児の造形表現と造形教材 萌文書林			
参考文献	特に指定しないが、幼児造形に限らず、美術全般に幅広く関心を持ってもらいたい。			
成績評価の方法と基準	筆記試験は行いません。追試は実施しません。 出欠状況と授業への取組み50パーセント、作品提出の状況と取組み50パーセントを目安にした総合評価。			
担当教員の専門分野等	美術家。本校においては、資格試験の実技指導に当たる。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	必修 1単位 講義	講 師	廣田 篤憲
授業概要	現場で役に立つ実践的な課題を制作し、造形の技法を身につけその能力を高め指導者としての能力を養い身につけ、絵画造形の技法をより高めるように習得する。			
授業目標	1. 幼児の造形教育の背景について理解し、育みたい「資質・能力」を知り、幼児期の終わりまでに育てたい姿を目標として、その基礎的な造形能力・表現力および指導方法を身につける。 2. 造形における教材・素材等の活用及び作成と、造形教育の環境の準備構成、指導現場で展開できる技術と表現力を実践的に習得する。			
到達目標	1. 子どもの造形活動について理解し、造形能力の発達段階に応じた造形指導ができるようになる。 2. 保育現場を考慮し、子どもの造形能力に応じた、造形環境を準備し造形遊びの内容を構成することができる			
授業方法	準備された画材・素材を使用して造形作品を制作しつつ、現場での指導方法を考え習得する。 多種多様な表現方法を学び身につける。			
授業計画	1 保育における造形表現の意味、造形表現の基礎知識(色彩、画材などの基礎知識)、教材づくりと準備 2 クレヨン・クレパスを使って虹色の形を作ろう(指を使って画材の特性を知る) 3 バチック(はじき絵)、油性のクレヨンと水彩絵の具の性質を生かして 4 画用紙をZ折りにして、展開して変化することを楽しむ絵を描く 5 スポンジを使って虹の表現から発展 6 産学連携 7 吹き絵(ブロウイング)たらし絵、飛ばし絵(ドリッピング)などで絵の具あそび 8 造形表現の描画における発達段階と児童画の特徴を学ぶ(クレヨン・クレパスで体験する) 9 デカルコマニー、絵の具の軌跡(偶然からできる作品で遊ぶ) 10 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する 11 点・線を使って描いたものから、何かを見つけて絵に仕上げよう 12 産学連携 13 ひっかき絵(スクラッチ)、平面技法の応用 14 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのおもちゃを制作する:その1. 15 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのおもちゃを制作する:その2.			
必須テキスト	幼児造形の基礎 萌文書林 著者:樋口一成 編著			
参考文献				
成績評価の方法と基準	作品、出席状況による総合評価(作品は全作品提出が単位取得の最低条件です) 講義を受ける姿勢および意欲も評価します			
担当教員の専門分野等	多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。中・高等学校美術科教諭を経て印刷物のためのイラストレーション、機械式腕時計内部の鉛筆細密デッサン、立体作品、アーマチュアの制作、アートディレクションなど。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	必修 1単位 講義	講 師	高木 秀文
授業概要	自由でのびやかな想像力を身近で親しみのある素材を通して形にしていく領域「造形」を子どもと一緒に楽しみながら活動していく知識と技能を身につける。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	1. 子どもの造形活動を深く理解して寄り添い、指導と同時に支援する行動が取れるようになる。 2. 季節や行事に沿った造形遊びのアイデア、引き出しを増やして幅広い造形活動ができるようになる。			
授業方法	幼児期の絵画表現を再現して造形活動への理解と興味を深める。 身近な素材を使った製作物を作り、成果を共有する。			
授業計画	1 授業内容、教材、用具、評価の説明。 児童画を鑑賞して気づいた点をコメントして共有します。 2 なぐり描き期の説明と作例の共有をします。 関連演習ー背面向きで顔を描く。 3 象徴期の説明と作例の共有をします。 関連演習ー身の回りの顔さがし。 4 図式期の説明と作例の共有をします。 関連演習ー絵描き歌を考える。 5 身の回りで集めた用紙、色紙を用いて貼り絵のお弁当を作ります。 6 産学連携 7 貼り絵のお弁当を入れるリュックサックを色画用紙で製作します。 8 粘土玉作り、ペットボトルへ貼り付け、色粘土作り。 9 6月にまつわる風物や行事から題材を取った絵とお話作り。 10 紙粘土1で作った粘土玉で頭足人を製作、他製作物の共有します。 11 折り方と切り方を変えながら各種花びらを製作します。 12 産学連携 13 すり合わせ版画の製作と見立てた結果を共有します。 14 キッチンペーパーを使った揉み紙と紙染めをします。 15 油性クレヨンと水彩絵具ではじき効果を共有します。			
必須テキスト	特になし。			
参考文献	授業内で適宜紹介します。			
成績評価の方法と基準	製作課題への積極的な取り組み(30%)+特定課題(事前告知)の仕上がり(20%)+見直しテスト課題(50%)=合計(100%) 意欲的な取り組みを評価します。			
担当教員の専門分野等	絵画(日本画)制作。文化財修復技師。幼稚園の課外造形授業、美術研究所の児童画教室の勤務歴あり。			

2022年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I	必修 2単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義・目的と役割を学び、乳児保育の現状と課題を知る。 ・3歳未満児の発育・発達をふまえた保育を学ぶ。 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的背景及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多岐にわたる「乳児保育」の内容について知りアクションペーパーにまとめることができる 2. 「乳児保育」について必要な事は自ら調べることができる。 			
授業方法	授業で学んだ範囲を自ら調べたり、感じたことをリアクションペーパーへ記入してまとめる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物について等) 2 乳児保育はなぜ必要か 3 乳児保育の成り立ち 4 保育所保育指針から学ぶ 5 人生の基礎としての乳児期 6 産学連携 7 小テスト (第1回～第5回までの授業を振り返る) 8 乳児のこころの発達 9 乳児のことばの発達 10 乳児のからだ 11 乳児保育の連携 12 産学連携 13 保育所の1日の流れ 14 保護者との連携 15 まとめテスト (第8回～第14回までの授業を振り返る) 			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院			
参考文献	授業中に適宜紹介			
成績評価の方法と基準	授業参加状況(50%)+リアクションペーパー(25%)+テスト(25%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」			

2022年度 講義要綱

科目	乳児保育 I	必修 2単位 講義	講師	星野 優芽
授業概要	3歳未満児の保育について学びます。乳児保育 I では、乳児保育の意義や目的、乳児保育の現状や課題、また3歳未満児の発達を踏まえた保育内容について学んでいきます。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的背景及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的を説明できるようになる 2. 乳児保育における「愛着」や「安全基地」について理解する 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 この授業の内容や方法について説明します。その上で、時間があれば、乳児保育についてのイメージを聞かせていただければと思います。 2 乳児保育とはそもそも何か、またその社会的意義について学びます。 3 保育所保育指針における乳児保育の理念と、児童福祉施設の設備運営に関する基準について学びます。その上で、乳児保育が行われているさまざまな場所についても知っていきましょう。 4 子どもが育つことの基盤になる「愛着」について学びます。子どもは愛着対象である大人を安全基地にして遊びや環境に向かいます。それによって、子どもは好奇心や探究心をもって、外の世界に自ら働きかけることが出来るよ 5 乳児保育で大切な「3つの視点」と、1歳以上3歳未満、3歳以上の保育で大切な「5領域」について、それらがなぜ必要なのか、また「3つの視点」と「5領域」のつながりについて学びます。 6 できれば乳児保育(0歳児、1歳児、2歳児クラス)で子どもがどんな遊びをしていたか、どんな様子だったか、について観察してきてもらえたらと思います。 7 0～3歳を見通したときどんな流れで子どもが発達して(育って)いくのか、おおまかにさらってみましょう。 8 保育所保育指針第2章には、保育における「ねらい」と「内容」が書かれ、その上で「保育の実施に関わる配慮事項」という項目が設けられています。そこに書かれた内容について詳しく学んでいきましょう。 9 保育所や認定こども園の乳児保育では「日課」や「デイリープログラム」と呼ばれる1日の流れがおおまかに決められています。子どもが同じ生活リズムで過ごすことが、心身の安定につながるからです。そうしたデイリープログラム 10 具体的な事例から、職員間の連携について考えてみましょう。同時に担当制についても触れ、そのメリットや気を付けなければならないことについても考えてみましょう。 11 乳児を保育する上では、特にその家庭での過ごし方を知ることが重要です。保育する上で必要な保護者とのコミュニケーションと、その支援について学びます。 12 子どもと保育者が関わる場面から、「愛着」というものを感じたり、年齢が低いながらも夢中で遊ぶ子ども、それを支える保育者のかかわりに注目してみましょう。 13 新生児から6か月未満の子どもの育ちと保育内容について学びます。 14 新生児から6か月未満の子どもの育ちと保育内容について学びます。沐浴実習の実施も検討しています。 15 ・乳児保育の意義・目的を説明する ・乳児保育における「愛着」や「安全基地」とはどのようなものか、具体的な例を用いて説明する 			
必須テキスト	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 松本峰雄監修 池田りな・才郷眞弓・土屋由・堀科(2019)『乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房			
参考文献	授業中に紹介			
成績評価の方法と基準	出欠席 …30% (6回分の欠席でE判定:再履修) リアクションペーパー …35% テスト …35%			
担当教員の専門分野等	保育者の専門性、実践知、0歳児保育について特に関心があります。 保育者は保育中何を考えているのか、何を見ているのか、あるいは、何について把握しておかなければならないのか、何を意識しておかなければならないのか、それが保育の実践における専門性であると考えています。			

2022年度 講義要綱

科目	乳児保育 I	必修 2単位 講義	講師	中村 直美
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達過程を学習します。また、その発達の姿を追いながら援助の方法や保育内容等の基本を学びます。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的背景及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1, 乳児保育の意義や目的、歴史、基本知識等を知ることができる。 2, 乳児の成長、発達過程等を知ることができる。 			
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1, パワーポイントを使用した講義 2, 乳児向けの手遊びや絵本、紙芝居の紹介 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 乳児保育とは 3 乳児保育の歴史について 4 乳児保育を支える法律について(児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準) 5 乳児保育の基礎知識① 人間の赤ちゃんは無力なの？(ポルトマンの生理的早産と乳児の生得的な特性) 6 産学連携 7 乳児保育の基礎知識② 愛着形成(ボウルビイの愛着理論) 8 保育所での愛着形成について、1～2か月、3～4か月児の発達の特徴 9 5～6か月児の発達の特徴、乳児の睡眠について 10 7～8か月児の発達の特徴、SIDSについて 11 9～10か月児の発達の特徴 乳児の授乳について 12 産学連携 13 11～12か月児の発達の特徴 乳児の離乳食について 14 1歳～1歳6か月児の発達の特徴 1歳6か月～3歳未満児の発達の特徴 15 試験・まとめ 			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」 志村聡子編著者 同文書院			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
成績評価の方法と基準	出席状況、授業への取り組み、課題提出(50%)+試験(50%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			

2022年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ	必修 1単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	乳児保育の基本を知り、乳幼児期の生活と援助の方法を体験する。 3歳未満児の発育、発達をふまえた保育を深める。			
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。			
到達目標	1. 多岐にわたる乳児保育について知り、リアクションペーパーにまとめることができる。 2. 座学で学んだだっこ、沐浴、着替えを適切に行える。			
授業方法	講義内容から自分の考えをリアクションペーパーに記入。 抱っこ、沐浴、着替え等の介助を実際に行う体験学習。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価持ち物等の説明) 2 だっこのしかた・おんぶのしかた 3 だっこのしかた・おんぶのしかた【実践】 4 乳児の衣服の基礎、衣服の着せ方・脱がせ方 5 おむつ替えとおむつはずれ 6 産学連携 7 赤ちゃんの着替えとおむつ替え【実践】 8 授乳のしかたと離乳食の基礎知識 9 授乳のしかた【実践】 10 乳児保育の安全管理 11 沐浴の仕方・清拭の仕方 12 産学連携 13 沐浴(抱っこ～着替えの復習)【実践①】 14 沐浴(抱っこ～着替えの復習)【実践②】 15 まとめ			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院			
参考文献	授業中に適宜紹介			
成績評価の方法と基準	実技への取り組み(25%)+出席状況(25%)+リアクションペーパー(50%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」			

2022年度 講義要綱

科目	乳児保育Ⅱ	必修 1単位 講義	講師	星野 優芽
授業概要	3歳未満児の保育について学びます。乳児保育Ⅱでは演習を中心に、3歳未満児の発達に則した保育内容について考えていきましょう。それを踏まえて、3歳未満児の保育の計画や記録について、実際の「月案」などから考えていきます。			
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。			
到達目標	1. 0～3歳の発達の特徴や過程を理解し、それを踏まえた保育の内容や方法を理解する。 2. 0～3歳の保育の計画や記録を読み解き、保育者の意図や乳児(3歳未満児)保育における留意事項を理解する。			
授業方法	・講義や演習(グループワーク:GW) 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり			
授業計画	1 この授業の内容や実施方法について説明します。その後、時間があれば授業の内容に入っていきたいと思えます。 2 6か月以上1歳未満の子どもの育ちについて学びます。 3 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容について学びます。 4 1歳以上2歳未満の子どもの育ちについて学びます。 5 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容について学びます。 6 産学連携 7 2歳～3歳の子どもの育ちについて学びます。 8 2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容について学びます。 9 乳児保育における保育室や園庭の環境について考えてみましょう。乳児期からどんな経験ができたらいいなと思えますか？ 10 1歳未満の子どもの事例から、その子どもの心の動きや保育者のかかわりについて考察していきましょう。子どもの気持ちや保育者のかかわりの意図、自分だったらどうかかわるだろう？ 11 2歳児の子どもの事例から、その子どもの心の動きや保育者のかかわりについて考察していきましょう。子どもの気持ちや保育者のかかわりの意図、自分だったらどうかかわるだろう？ 12 産学連携 13 0歳児クラスの月案を保育所保育指針に照らし合わせ、どんなことが書いてあるのか、確認してみましょう。 14 3歳未満児の記録には、個別の記録(計画)と集団の記録(計画)があります。それらはどうに関連しているのか、考えてみましょう。 15 ・0歳～3歳の子どもの育ちと保育内容に関する穴埋め ・事例を読んだうえでの子どもの心の動き/育ちの読みとり、保育者のかかわりの意図の読みとり			
必須テキスト	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 松本峰雄監修 池田りな・才郷真弓・土屋由・堀科(2019)『乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房			
参考文献	授業中に紹介します。			
成績評価の方法と基準	出欠席 …30% (6回分の欠席でE判定:再履修) リアクションペーパー …35% テスト …35%			
担当教員の専門分野等	保育者の専門性、実践知、0歳児保育について特に関心があります。 保育者は保育中何を考えているのか、何を見ているのか、あるいは、何について把握しておかなければならないのか、何を意識しておかなければならないのか、それが保育の実践における専門性であると考えています。			

2022年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ	必修 1単位 講義	講 師	中村 直美
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ3歳未満児の発達過程を踏まえて、実際の保育の場での援助方法、関わり方等を実習室での実習や、対応ワーク等で演習しながら学びます。			
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わり方の基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。			
到達目標	1. 3歳未満児の発達過程やその特徴を理解できる。 2. 上記を踏まえた援助方法や関わり方が理解できる。			
授業方法	1. パワーポイントを使用した講義 2. 実習室での実技演習			
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 身支度、抱っここの仕方、おんぶの仕方について 3 乳児の衣服の基礎知識、衣服の着せ方、脱がせ方の基本について 4 乳児の排泄の基礎知識、オムツ交換の仕方の基本について 5 乳児の衣服の着脱方法、オムツ交換の実際について 6 産学連携 7 乳児のからだの清潔の基礎知識、沐浴の基本について 8 沐浴の実際について 9 授乳、冷凍母乳、離乳食の基礎知識について 10 授乳、離乳食の実際について 11 事例ワーク 12 産学連携 13 かみつき、ひっかきについて考える① 14 かみつき、ひっかきについて考える② 15 試験・まとめ			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	出席状況、授業への取り組み、課題提出(50%)+試験(50%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			

2022年度 講義要綱

科目	子どもの健康と安全	必修 1単位 講義	講師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。			
授業目標	1. 保育における保健的観点の踏まえ保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。			
到達目標	1. 子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し、知識を深める。 2. 保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策および救急処置が行える。			
授業方法	講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 救急・応急処置法は演習を中心に行う。			
授業計画	1 子どもの健康の維持と健康管理の必要性を考え、理解する。 2 ・子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 ・子どもが体調不良を起こしたときの観察点を学び、理解する。 3 子どもの体調不良時の対応方法を学び、理解する。 4 事例検討①・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 5 事例検討②・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 産学連携 7 産学連携を通して、気付いた危険を振り返る。 8 実際に起こった犯罪事例を通して、原因や予防法を考え、学ぶ。 保育者としての責任、定義を再確認する。 9 実際に起こった事故・事件の裁判事例を通して、保育態度が招く危険とそれに伴う罰則、裁判を知り、学ぶ。 また保育者としての責任、定義を再確認する。 10 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 11 CPR法、AED装着法、窒息時の背部叩打法を学ぶ。 実際に演習を行う。 12 産学連携 13 救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 14 子どもの感染症の予防、アレルギー疾患を学び、理解する。 15 総まとめとして定期試験を行う。			
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規。			
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布します。			
成績評価の方法と基準	定期試験(80%) +リアクションペーパー・演習態度(10%) +提出物(10%) = 合計(100%)を総合して評価します。			
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。			

2022年度 講義要綱

科目	子どもの健康と安全	必修 1単位 講義	講師	尾近 千鶴
授業概要	<p>1. 「子どもの保健」で学んだ子どもの発達・成長の特性と、心と身体の健康を維持し、増進する働きかけについて、「子どもの健康と安全」の授業では、その具体例と方法を学ぶ。</p> <p>2. 子どもの生命維持に必要な知識、安全を守る上で必要な知識を学び理解する。</p> <p>3. 子どもの健康と安全を守る周囲の大人や社会の適切な対応について理解を深める。</p>			
授業目標	<p>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</p> <p>2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、子どもの健康と安全の授業では、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。</p> <p>3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。</p> <p>4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。</p>			
到達目標	<p>1. 「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、「子どもの健康と安全」の授業では、子どもの発達に応じた乳幼児の保健的対応について、具体的に説明できる。</p> <p>2. 保育における健康と安全に関する場面を想定し、環境の構成、保育士の配慮事項を含む、事故予防の観点、安全面への配慮といった保健的な対応を組み立てることができる。</p>			
授業方法	<p>対面授業と遠隔授業。Teamsの機能を活かした資料の配布と課題提出の推進を図る。自分の考えを発表する機会を設定する。様々な形式で演習問題に取り組み、知識の定着と臨床で活かせる知恵を身につける。</p>			
授業計画	<p>1 ・オリエンテーション 授業の概要、進め方、評価について・保健的観点を踏まえた保育環境および援助について知る</p> <p>2 子どもの保健に関する個別対応、集団における対応</p> <p>3 保育における施設管理</p> <p>4 子どもの事故の特徴と事故防止、安全対策</p> <p>5 危機管理と災害</p> <p>6 産学連携</p> <p>7 体調不良時、傷害時の対応と応急処置①</p> <p>8 体調不良時、傷害時の対応と応急処置②</p> <p>9 感染症の症状と対応／集団発生の予防</p> <p>10 保育における保健的対応／食事、排泄、睡眠、外出、保育行事など</p> <p>11 個別的な配慮を要する子どもへの対応①</p> <p>12 産学連携</p> <p>13 個別的な配慮を要する子どもへの対応②</p> <p>14 障害をもつ子どもへの対応</p> <p>15 保健計画と評価／職員間、関係機関との連携</p>			
必須テキスト	<p>「授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健 テキスト」小林美由紀編著 診断と治療社</p>			
参考文献				
成績評価の方法と基準	<p>小テスト2回(40%)＋課題レポート2回(40%)＋日常点・授業への取り組み(20%) ＝合計(100%) 意欲的、積極的な取り組みを評価します。</p>			
担当教員の専門分野等	<p>「実務経験のある教員による授業」に該当。国内外での教育機関などでの勤務。 子ども学分野を研究。文学博士。</p>			

2022年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ	必修 1単位 講義	講 師	北川 裕子
授業概要	施設や保育士の役割や援助等、基礎的な内容について具体的に学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 			
到達目標	施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。 虐待の防止、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。			
授業方法	事例研究やロールプレイ、児童自立支援計画の立案等を通し、保育現場での実践力を身につけられるような学習を取り入れる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護の基本原理等の復習、子どもの権利擁護 2 保育士の資質と倫理・責務、チームワーク 3 施設養護の生活特性および実際 ①入所、日常生活援助 4 施設養護の生活特性および実際 ②集団生活、家族調整 5 施設養護の生活特性および実際 ③自立支援 6 産学連携 7 施設養護の生活特性および実際 ④退所、アフターケア 8 施設養護の生活特性および実際 ⑤記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価 9 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ①心理的支援 10 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ②被虐待児への支援、親への支援 11 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③障がい児への支援、親への支援 12 産学連携 13 里親等の家庭養護の特性及び実際 14 今後の施設の方向性(小規模化等) 15 今後の社会的養護の方向性(家庭的養護の推進、地域との関わり、展望等) 			
必須テキスト	なし			
参考文献	「児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ」 吉田真理著 萌文書林 「図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」 原田旬哉他 萌文書林			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(15%)+提出物(75%)=合計100%			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			

2022年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ	必修 1単位 講義	講 師	鴫田 陽介
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学ぶ。 支援の基盤となる支援計画の作成方法を学び、実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。			
授業目標	社会的養護における支援計画及び具体的な支援方法について理解する。 自身の性格や傾向を知り、専門職としての意識を高める。			
到達目標				
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れ、主体的な参加型の授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業方法や成績評価)／社会的養護Ⅰの復習 2 社会的養護施設の子どもたちへの理解 3 子どもの権利 4 生活支援と治療的支援 5 自立支援とアフターケア 6 産学連携 7 子どもと向き合うということ 8 社会的養護を必要とする親子への理解 9 愛着障害児への理解と支援方法 10 情報収集とアセスメント 11 自立支援計画の作成 12 産学連携 13 ケーススタディ 14 テスト・振り返り 15 社会的養護の教科の振り返りと今後の展望 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内において紹介。			
成績評価の方法と基準	出欠席(30%)＋授業内レポート(30%)＋定期テスト(40%)＝合計(100%) 初回授業時に説明します。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。児童養護施設・発達障害児支援施設での経験あり。			

2022年度 講義要綱

科目	保育実習指導 I a	必修 1単位 講義	講師	佐藤 めぐみ、佐藤 博美、 中西 和子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な学習経験である保育所実習を有意義なものにするために必要な事項を学ぶ。 ・実習日誌の記載方法を体得し、実習に向けての準備や心構えを養っていく。 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 			
到達目標				
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して実習を想定し、実習生として必要な常識、スキル、柔軟性を学び、身に付ける。 ・実習に必要な、態度(報告、連絡、相談また挨拶など)の大切さを知り、習慣として身につく。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の概要 2 実習の心得 個人票作成 3 保育所の1日の流れと保育内容の理解 実習目標を立てる 4 実習日誌を書く意義と記入の仕方 5 実習日誌:エピソード記録の書き方について 6 産学連携 7 部分実習指導計画について 8 実習に伴う書類の作成 事務手続きの確認 実習課題 9 オリエンテーションについて 実習日誌の書き方 10 グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成 11 グループワークによる手遊び・絵本の発表・ペープサート発表 12 産学連携 13 実習日誌:ドキュメンテーション記録について 14 まとめ振り返り 15 試験 最終確認 			
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～」(萌文書林)「保育所保育指針」(チャイルド社)			
参考文献				
成績評価の方法と基準	出席状況25%、発表(読み聞かせ、ペープサート)40%、テスト15%、提出物20%			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b	必修 1単位 講義	講 師	東郷 結香、石崎 隆嗣
授業概要	貴重な学習経験である施設実習を有意義なものにするために、必要な事項を学び、施設実習に向けた準備をする。 あわせて実習日誌の記載方法を体得する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・(児童)福祉施設の入所児、利用者、職員に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。 ・実習に臨む目的意識、問題意識を持てる。 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義により、(児童)福祉施設についての知的理解を深める。 ・実際の現場に立ち、施設の実践に触れる中で、体験的に学ぶ。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設実習の意義と目的 2 施設実習先の種別や実習の実際、必要な準備について 3 乳児院について 4 児童養護施設について 5 母子生活支援施設について 6 産学連携 7 児童発達支援センター(療育)について 8 福祉型障害児(者)施設について 9 医療型障害児(者)施設について 10 実習日誌の理解と演習 11 実習目標を立てる 12 産学連携 13 実習目標を立てる 14 まとめと振り返り 15 まとめと振り返り 			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2022』西郷泰之・宮島清編著、中央法規			
参考文献	適宜、授業内で紹介			
成績評価の方法と基準	出席点(30%)＋平常点(30%)＋レポート等提出物(40%)＝合計(100%) 実習と同じルールを適用するため、基本的に遅刻・欠席は認めない。			
担当教員の専門分野等	(東郷)心理学が専門。児童養護施設や発達障害児支援、心理臨床の現場を経験。 (石崎)教育学が専門。児童発達支援および放課後等デイサービスの現場を経験。			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもと保育	選択必修 4単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ、佐藤 博美、中西 和子
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。 実習をイメージしながら、実習に必要な事柄を能動的に習得することができる。			
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 保育所について 3 保育士のプロ視点を持つ① 4 保育現場職員講演 5 保育士のプロ視点を持つ② 6 産学連携現場活動 7 保育実習までの手順 8 保育士の仕事を知る 9 実習Ⅱ自己開拓について 10 日誌の書き方①基本と環境図 11 日誌の書き方②時系列日誌の基本① 12 産学連携現場活動 13 日誌の書き方③自分の見学した日誌書いてみよう 14 日誌の書き方④時系列日誌を最後まで完成しよう 15 日誌の書き方⑤日誌をプロの視点で添削 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30			
必須テキスト	なし			
参考文献	なし			
成績評価の方法と基準	平常点(60%)＋課題(40%)＋提出物(20%) 基本的に無断欠席を認めない授業である。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			

2023年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏	選択必修 2単位 講義	講 師	
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら考えながら、より良い指導法のテクニックを培っていく。コードネームの基礎をマスターする。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスンでは保育実習Ⅱに向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲仕上げる。 ・季節や生活・行事等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に着ける。 			
授業方法	1年次と同じく、クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、①ピアノ等の個人レッスンと②合唱等のグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(①②に分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 ①ピアノ等による個人レッスン／②合唱等のグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 ①ピアノ等による個人レッスン／②1年次にマスターした子どもの歌のレパートリーの確認。</p> <p>4 ①ピアノ等による個人レッスン／②コード伴奏等の基礎知識(五線紙は配布します。)</p> <p>5 ①ピアノ等による個人レッスン／②現場で役立つ声の出し方(呼吸法と発声法)</p> <p>6 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌教材研究</p> <p>7 ①ピアノ等による個人レッスン／③3～4名のグループによる指導法研究と発表</p> <p>8 ①ピアノ等による個人レッスン／②指揮法基礎</p> <p>9 ①ピアノ等による個人レッスン／②2声・3声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 ①ピアノ等による個人レッスン／②リトミックを含む歌遊びの指導法研究</p> <p>11 ①ピアノ等による個人レッスン／②リズム楽器を楽しむ</p> <p>12 ①ピアノ等による個人レッスン／②弾き歌いの指導法研究</p> <p>13 ①ピアノ等による個人レッスン／②個人レッスンによるアドバイス</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(①②共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り</p>			
必須テキスト	<p>『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版</p> <p>『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社</p> <p>※対面時は”有線イヤホンorヘッドフォン”をお持ちください</p>			
参考文献	日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度(50%)＋実技試験(50%)＝合計100% 実技試験課題については1か月前には担当講師と個別に検討を始め、ピアノ曲、弾き歌い各1曲(または弾き歌い2曲)を準備すること。			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ	選択必修 1単位 講義	講 師	上田 亜津子、金内 祥子、木下 裕子、島内 亜津子、豊嶋 祐壹、山崎 洋子、石原 奈保子、鈴木 祥子、鈴木 祥子
授業概要	保育の現場において生活と遊びの中で様々な用いられる、わらべ歌、手遊び歌、リミックソング、季節の歌や生活の歌等、知っておきたいレパートリーを多角的に演習していく。また、コードネームによる簡易伴奏の基礎を学び、現場での指導に活用できる力を養う。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスンではハ長調の主要三和音を使った弾き歌いのレパートリーを2曲以上作る。 ・様々な子どもの歌の音程、リズム、ねらい等を学び、伝えたいことをしっかり表現する。 			
授業方法	前期と同様にクラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、④ピアノ個人レッスンと⑤歌遊びのグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A/Bに分かれて45分で入れ替わる)Aの個人レッスンでは次週の各人の課題を担当講師と打ち合わせ、次週に向けての個人練習を続けましょう。</p> <p>2 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤保育士の音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布します)</p> <p>4 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤現場で役立つ声の出し方=呼吸法・発声法の演習。</p> <p>5 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤手遊び歌やわらべ歌の演習</p> <p>6 産学連携</p> <p>7 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤弾き歌いによる指導法について</p> <p>8 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>9 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤リミックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 産学連携</p> <p>13 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤個人レッスンによるアドバイス</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(④⑤共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り</p>			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドホン”をお持ちください			
参考文献	日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度(50%)＋実技試験(50%)＝合計100% 実技試験課題については1か月前には担当講師と個別に検討を始めピアノ曲、弾き歌い各1曲を準備する。			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リミック指導。			